

北広島市総合教育会議議事録

| | |
|------|--|
| 会議名 | 令和2年 第1回 北広島市総合教育会議 |
| 日時 | 令和2年9月3日(木) 15時00分～16時00分 |
| 場所 | 北広島市役所 3階 3D会議室 |
| 構成員 | 上野正三(北広島市長) 吉田孝志(北広島市教育委員会教育長) 大山秀之(北広島市教育委員会委員) 成田郁久美(北広島市教育委員会委員) 石上浩子(北広島市教育委員会委員) 高山隆二(北広島市教育委員会委員) |
| 事務局 | 川村裕樹(企画財政部長) 橋本征紀(企画財政部企画課長) 大川真理子(企画財政部企画課主査) 村上洋輔(企画財政部企画課主任) 千葉直樹(教育部長) 津谷昌樹(教育部理事) 下野直章(教育部教育総務課長) 田中加奈(教育部教育総務課主任) 中島勇斗(教育部教育総務課主事) |
| 説明員 | 寺嶋裕介(東部中学校教頭) |
| 議事日程 | 1 開会 2 協議・調整事項 GIGAスクール構想の推進について 3 その他 4 閉会 |

開会前

上野市長

開会前にお諮りいたします。

本日の協議・調整事項ですが、北広島市総合教育会議の運営に関する要綱第5条の規定に基づき、関係者から意見を聴取したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。

本日の協議・調整事項においては、関係者から意見を聴取したいと思います

日程第1 開会

上野市長

ただ今から令和2年第1回総合教育会議を開催いたします。

日程第2 協議・調整事項

上野市長

本日の協議・調整事項についてであります、「GIGA スクール構想の推進について」について、意見交換を行ってまいりたいと思います。

国では、Society5.0社会を担う人材育成を目的に、令和4年度までに児童生徒1人1台のパソコン端末の整備や学校における高速大容量のネットワーク環境の整備など、学びの基盤づくりとなるGIGA スクール構想を推進しているところであります。

本日は、GIGA スクール構想の意義や背景、本市におけるICT環境整備の取組、実践事例、今後の展望と課題等について共有を図るとともに、現場の先生にもお越しいただき、お話を伺いたいと思っております。

それでは、事務局から説明をお願いします。

下野課長

教育総務課長の下野でございます。私から、GIGA スクール構想について、ご説明させていただきます。

GIGA スクール構想につきましては、昨年12月に国から示されて以降、教育委員会において、慎重に検討を進めてまいりましたが、今年に入り、新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延し、学校の臨時休業期間が延べ約3か月に渡る中で、学

びの保障の観点から、整備の加速化が強く求められたところであります。

本市におきましても、国の第二次補正予算及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等、今年度限りの有利な財源措置が講じられたことを受け、7月21日の市議会臨時会において、3億2,252万7千円の予算措置をしていただき、市といたしましても、GIGAスクール構想を加速化することとしたところであります。

本日は、GIGAスクール構想につきましては、あらためて、その意義や背景、本市のこれまでの取組、そして、今後の展望と課題について、東部中学校の寺嶋教頭先生による実践事例の紹介を交えて、ご説明させていただきたいと思っております。

GIGAスクール構想の「GIGA」につきましては、Global and Innovation Gateway for All の略です。スライドに記載の文部科学大臣のメッセージにその考えが示されているものと考えております。

中段に黄色塗りつぶしの箇所があります。「1人1台端末は令和の学びのスタンダード」というキャッチフレーズが先行しているかと思いますが、目指すところは、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現」となっております。

GIGAスクール構想の背景についてです。1点目として、少子・高齢化、人口減少が進み、労働人口が減少するということです。総務省の資料によると、2050年までに、15歳以上65歳未満の労働人口が、現在の7,406万人から、5,269万人へ減少し、労働人口2,137万人、28.9%が喪失する時代にあるということです。

2点目として、IoT、AI、ロボティクス等の技術革新が一層進み、産業構造やライフスタイル等に大きな変化が訪れるといわれています。いわゆる、Society5.0社会が訪れ、情報技術が基盤となる社会、AI等により多くの職種がコンピュータに代替される社会、労働力不足を補うためコンピュータへ代替しなければ成り立たない社会になると言われています。

こうした時代に求められる人材として、「他者と協働し、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する力をもった人材が求められる」ことが指摘されています。そして、こうした力を発揮するうえで、情報活用能力は基盤的な能力として、必須の能力になると言われています。

Society5.0社会を支える人材育成のため、先端技術・教育ビッグデータの効果的な活用と、基盤となるICT環境の整備が必要なるということです。つまり、GIGAスクール構想とは、Society5.0社会を支える人材育成のため、学びの基盤となるICT環境の整備を進めるものであります。

こちらのスライドについては、先ほどの説明に関わる資料となります。表1については人口減少のグラフとなります。表2については、臨時休業期間中に調査した、児童生徒のスマートフォン所持率です。小学1年生の7%から中学3年生の65.1%まで右肩上がりになっており、ICT機器が非常に身近になっているのが分かります。今後は、この所持率が上昇するものと考えています。

表3は、オックスフォード大学のオズボーン准教授と野村総合研究所が実施した、雇用の未来に関する調査結果です。代替の可能性の高い職業としては、定型的な業務や肉体労働などの業務、一方で、代替の可能性が低い職業として、教員、保育士など人と人との関わり合いが重要な職種や創造的な職種が挙げられています。

表4は、ソニー生命が実施した中高生の意識調査結果です。YouTuberやゲームクリエイターなど、創造的な職種、また、情報活用能力が求められる職種への期待が高まっていることが分かります。

こちらは、国の動向のうち主なものをお示したものです。平成22年以前からコンピュータ教室の設置など教育の情報化は進められてきましたが、GIGAスクール構想の原型については、平成23年の教育の情報化ビジョンにおいて示されるとともに、教育振興基本計画等で段階的な整備水準が示されてきました。昨年6月に「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」の公表、学校教育の情報化の推進に関する法律の公布・施行以降、国による補助制度の創設など財源措置が進められてきました。こうした中、今年2月以降、新型コロナウイルス感染症が国内において蔓延し、全国で臨時休業が行われる中、学びの保障の必要性の観点から、加速化が求められることとなりました。

ここからは、GIGAスクール構想により、学びがどのように変わるのかについてです。

ICTを基盤とした先端技術・教育ビッグデータを活用する意義について、国からは4点示されています。

1点目は、オンライン授業など遠隔技術の活用等による、学びにおける時間・距離などの制約を取り払うことです。2点目は、協働学習ツールやAIドリルを活用した、個別に最適で効果的な学びや支援です。3点目は、ビッグデータ等を活用した学びの知見の共有や生成です。児童生徒の学習履歴や行動、教師の経験知などをビッグデータで解析することで、より良い学びにつながるとされています。4点目は、校務支援システムや遠隔技術を活用した校務の効率化です。

こちらは、先ほど4つの意義を支える先端技術です。このなかで、統合型校務支援システム、協働学習支援ツール、デジタル教科書はすでに導入しています。

こちらは、7月17日開催されました、文部科学省中央教育審議会における資料です。上の枠囲みに、「発達段階に応じて、ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす(ハイブリット化)ことで協働的な学びを展開する」とあり、また、最下段の中央に赤枠囲みで「多様な子供たちを誰一人取り残すことがないよう、個別最適化された学びと、社会とつながる協働的・探求的な学びを実現」とあります。国が目指す方向性が端的に示されているものと考えています。

また、ハード面の議論として、同じ会議において、3つの論点が示されています。このうち、1点目の授業中における端末の利用を前提とした机について、3点目の新型コロナウイルス感染症にかかる身体的距離の確保については、机の規格変更や教室の広さなどの変更が必要になるものであり、今後の学校施設や教材教具の整備・更新を進めるうえで注視していく必要があると考えています。

ここからは、北広島市のICT環境について、ご説明いたします。

こちらが、平成20年度以降の整備概要です。それ以前からも、各学校にパソコン教室を整備してきましたが、平成20年度以降も計画的に整備を行っており、これまでに、児童生徒用のパソコン各学校1クラス分程度、校務用のパソコン、プロジェクタ、各学校のサーバの整備、統合型校務支援システムの導入、校内LANや普通教室の無線化、主要教科に係るデジタル教科書等の購入等を行うとともに、各種保守及び保守業者による巡回支援等を行ってきました。

こちらは、学校ICT環境構成図になります。

こちらは、今年度の学校ICT環境整備事業の概要です。

当初予算では、デジタル教科書の更新を行うこととしていましたが、補正予算を措置していただき、記載の5事業を行うこととしています。

1点目は、児童生徒用パソコンとして、国の補助対象となる、児童生徒3人に2人分の端末整備として3,002台の購入です。発達段階に応じ、小学5年生から中学3年生に1人1台、小学1年生から4年生については3～4人に1台となるよう整備することとしています。年度末までの納入を目指すところですが、このパソコン端末調達は全国の自治体で一斉に行っていることから、生産が追い付かない状況と言われており、最終的な納期が、次年度にずれ込む可能性もあるものです。

2点目は、購入したパソコンを充電しながら保管できるキャビネット90台を購入するものです。

3点目は、普通教室及び一部の特別教室にある無線LANアクセスポイントを増強するとともに、無線LANアクセスポイントが未設置の特別教室についても設置する

ものです。これにより全教室で無線 LAN を利用することができるようになるものです。

4 点目は、大型提示装置に関する整備として、小学校のマグネットスクリーンの 162 面の更新及び、モニタ型の電子黒板を学校の各フロアに 1 台程度購入するものです。

5 点目は、先日 27 日に採択しました、来年 4 月から使用する中学校のデジタル教科書を購入するものです。これまでの配信契約から、自校サーバ方式とし通信帯域の確保に努めることとしています。

こちらは、国が示す整備水準と本市の整備内容を比較したものです。大型提示装置、学習者用コンピュータ 3 人に 1 人分、ネットワークなど一部で検討事項はありますが、これまでの計画的な整備により、おおむね国の整備水準を満たしている状況です。

パソコン端末については、国が示す GIGA スクールモデルのうち、Google 社の chromebook を選定しています。

国が示す GIGA スクールモデル端末については、Microsoft 社の Windows 端末、Google 社の chrome 端末、Apple 社の iOS 端末がありますが、いずれの端末も、有償の OS やソフトウェアを購入し各端末にインストールするのではなく、インターネット通信を行い、クラウド上にある無償の教育用ソフトウェアを利用するものです。

選定した chromebook については、クラウド上にある、「G Suite for Education」と呼ばれる、文章作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの無償の学習プラットフォームを活用するものです。

選定の理由としては、7 月 27 日、28 日に開催した教職員向けの説明会及びデモ体験会において、Microsoft 社の端末と比較してもらい、おおむね好評だったこと、管内においても chrome 端末を選んでいる市町村が多く、教職員の異動時における負担の軽減が期待できること、他社端末と比較し、保守・管理が比較的容易であることなどから、選定したものです。

クラウドを利用する前提として、児童生徒及び教職員一人一人にアカウントを付与しますので、このアカウントをもって、自宅からクラウド上にアクセスしサービスを利用することができます。これにより、新型コロナウイルス感染症により再度臨時休業した場合など、教職員がクラウドを通じて課題配布や Meet と呼ばれるビデオ会議システムを活用した授業等を行うことが可能になるものです。

ここからは、東部中学校における実践事例をご紹介します。

はじめに、国が示すイメージについて説明させていただき、そのあと、寺嶋教頭先生からご紹介いただきたいと思います。

一人一台端末による学びの変容ですが、3点示されており、1点目の一斉学習の場面では、一人一人の反応が確認できることで、学びを深めることができるとされています。2点目は、個別学習の場面で、AIドリルを活用することで習熟度に応じた学びが実現できるとされています。3点目は、協働学習の場面で、協働編集作業等を通じた対話的な学習が実現できるとされています。

こちらは、ICTを活用した授業実践の10類型です。A1の教材提示、B2の調査活動、C1の発表などはよく行われています。

ここからは、東部中学校の実践についてご紹介いただきます。寺嶋教頭先生よろしく願いいたします。

寺嶋教頭

東部中学校教頭の寺嶋です。よろしく願いいたします。本校でも昨年からは生徒用のタブレットがパソコン室に導入され、早速授業でも使用させていただいています。活用例について大きく2点紹介し、最後に全員に端末が配布された場合の更なる活用方法についても触れさせていただきたいと思います。

活用例の一つ目が意見交流・話し合いの場面での活用です。今までであれば、全体で「手を上げて発表する」といったスタイルや、班になって「話し合い」「紙やホワイトボードに書いて黒板に掲示」といった方法で話し合い活動を実施していました。フェイス to フェイスのこうした活動も当然大切ですが、タブレットを使用することにより、全員の意見が映し出されるので短時間で交流が可能となります。手を上げて自分の考えを話すことが苦手な生徒も参加しやすくなるなど、全員参加型の授業となり学習に対する意識・意欲向上にもつながります。お互いの考えを視覚的に比較・整理できたり、思考時間も十分に確保できるなど、深い学びにもつながっていました。

二つ目が個別学習です。調べ学習をする場面で大いに活用しています。個人個人の興味関心、個人個人の作業のペースで学習を進めることができ、効果的であります。

技術科では、物づくりの場面で製図をパソコンで作成し、タブレットを技術室に持参し、それを見ながら作業をするといった活用もしています。実際の作業の場面で製図を微調整したい場合は、数値を入力し直せば図面ごと調整可能なので、作業時間を十分に確保できます。また、タブレットで写真も撮れるので、図面と出来上がりを一つの用紙にまとめることもできます。また、プログラミング学習の場面では、タブレットを記録場面で活用することで、振り返り・検証ができます。それに

より、発展的な課題を与えられたときに、どこを工夫すれば良いかなどがわかりやすくなります。ちなみにこの例は壁に衝突しそうになったら 180 度向きを変えるようなプログラムを基礎として学習します。それを左下のよう、フォローチャート、プログラム、実際の動きを動画にまとめます。それを踏まえ、もっと便利なシステムを作ろうという発展課題を与えます。子どもたちは、ピンクの部分に書いていますが、音を鳴らそうとかライトをつけようとか工夫し、それをプログラムに組み込むなどの取組を行います。

このように現場ではタブレットを幅広く学習活動の中で活用しています。

最後に、タブレットが導入されることによって、考えられる今後の更なる活用方法についてです。授業そのものでの活用はもちろんですが、以下のような活用も可能になると考えています。

1つ目が小テスト等の日常の評価での活用です。全員がタブレットを持っていれば、データを一齐送信し、その場で解答、記録保存ができます。印刷等の作業時間削減、ペーパーレス、成績処理の時間短縮が可能となります。

2つ目がアンケートでの活用です。表記の通り、学校では年間を通して各種のアンケートを実施しています。一家庭と学校の対応となりますので、プライバシーが保護されます。また、アンケートの集約、データ処理もソフトを活用すれば簡単に処理することが可能となります。これにより、教職員の作業時間が削減され、そこで生み出された時間により子どもたちとゆっくり向き合うことが可能となるといった、よりよい教育効果を生み出すことは間違いないと考えています。

私からは以上です。

下野課長

寺嶋教頭先生ありがとうございます。最後に、今後の展望と課題についてお話しさせていただき、まとめとしたいと思います。

今後の展望と課題として、お示しのとおり3点考えております。

1点目の、安定的かつ計画的な整備・更新についてです。として、国の目標年次である 2022 年度を踏まえた、児童生徒3人に1人分の整備時期や手法の検討が必要です。として、約3,000台のパソコンが安定して稼働するための、インターネット通信の帯域確保策の検討です。として、更新時期・技術革新を踏まえ、財源の確保策を含めた今後の整備の方向性や方法の検討です。ICT機器等については、おおむね5～6年程度で劣化がみられることや、保証や修理対象外となり更新時期を迎えることから、これらのことを踏まえた更新計画についての検討が必要です。

なお、端末については、BYODという、個人所有の端末を学校に持ち込むという考え方もあります。北海道教育大附属函館中学校の記事を載せていますが、今でも、

各ご家庭にご負担いただき書道セットや鍵盤ハーモニカなどの教材を用意していただいておりますが、これと同じように、端末をご用意いただくということの調査研究も必要であると考えています。

また、AI やセンシングなどの先端技術についても調査研究を続けていく必要があると考えています。

2点目の、教職員の ICT 活用能力の向上とその支援です。導入した ICT が効果的に活用されることが重要です。教職員の負担を極力低減しつつ、教職員の誰もが効果的に活用できるよう、市立学校全体としてボトムアップを図っていく必要があると考えています。このため、各学校に ICT 活用推進リーダー等を設置し、今まで以上に組織的・意識的に取り組む体制づくりや、北広島市教育研究会と連携した、実践的な研修機会を設けることなどの検討が必要と考えています。また、これまで実施しています、保守業者による ICT 支援の継続や充実などの検討も必要と考えています。

3点目の、児童生徒の学びの変容と効果の見える化です。児童生徒の学びは、教室における授業だけでなく、運動会や学芸会などの各種行事、委員会活動や部活動、学級や学年などの集団生活など学校教育活動の全体を通じて行われるものであり、ICT は、あくまで学びを充実させるためのツールです。一人一台整備することで、数値として明らかな効果がみられるということは難しい面もあるかと思いますが、イメージでお示ししているように、ICT を活用した授業を実践することで、児童生徒の学びへの興味・関心の高まり、モチベーションの向上など、何らかの良い効果が顕れ、教員へフィードバックされることで、教員の、継続的な授業改善への動機づけ、モチベーションの向上など、学びの好循環につながれば良いと考えています。

GIGA スクール構想の推進のためには、将来展望を見据え、中長期に渡る計画的な取組が必要と考えており、その指針となる学校教育情報化推進計画の策定についても検討が必要と考えているところです。

いずれにしても、学校 ICT 環境整備は、整備自体が目的ではなく、学びの変容のスタートであり、未来を担う人づくり、そして、学び合い、心を育むまちづくりという、大きな目的に向け、着実に取り組んでまいりたいと考えております。

事務局からの説明は以上であります。

上野市長

ただいま、事務局から説明がありました。特に、寺嶋教頭先生、ありがとうございます。それぞれのお話を聞いてご意見があると思いますので、大山委員から成田委員、石上委員、高山委員、教育長の順に、発言を願いたいと思います。

大山委員

ご説明ありがとうございます。話を聞きまして、今後大きな可能性があるのが GIGA スクール構想だと思えますし、そのスタートによいよ立つのだと実感いたしました。

北広島市では以前から ICT に取り組んでいまして、小中一貫教育にも取り組んでいますけれども、その後押しにもなり得ますし、これから大きく花咲くときが来たのだなと感じました。

まず、長所を考えてみますと、子どもたちの学習状況が個別に先生方に伝わり、それがフィードバックされ、一人一人に合った学びの提供を最大限に引き出せることかと思えます。

先ほど、寺嶋教頭先生がお話ししていましたが、タブレットによって、学校の教室の前面に意見を一齐に映し出すやり方なども、子どもたちがすぐに考えられるなど、色々な場面に使えると思います。また、一人一人が独自の目線で情報を収集したり、分析した結果を映し出して、それをクラスの全員が共有して、その場で、議論できることを考えると、子どもたちの情報活用能力をアップできるのではないかと思います。これは、今、新学習指導要領で言われている主体的かつ対話的な授業の典型的なものになるのではないかと思います。先生方は教えるプロですから、やり方のコツさえつかめばもっともっとすばらしい学習環境が提供できると思います。

課題としては、ハード面で、先日、インターネット通信環境の強化についてはランニングコストがかかると聞きましたので、その点をどう整理をしていくかということだと思います。

それから、ぜひ実現してほしいのは、子どもたちが1対1で学習できる環境を活用し、AIドリルを使って習熟度に応じた学習をした結果を数値化して検証していただきたいと思います。先ほど、GIGA スクール構想の効果を数字で把握するのはなかなか難しいという話があったのですが、そんな中でも見える化ができたらいいのではないかと考えています。

北広島市はほかの管内に比べて恵まれていると思います。先手先手と色々と打ってきたものがやっとな実を結ぶときが来たのだと思いました。

以上です。

上野市長

ありがとうございます。次に、成田委員、お願いします。

成田委員

GIGA スクール構想の説明を聞いて、4年前、教育委員に任命されたときに、北海道教育委員会が主催した新人研修を受けたことを思い出しました。そのときの講義が、まさに今、GIGA スクール構想でやろうとしているタブレット端末を使ったグル

ーワークやスカイプで外国とつないだ英語の授業の紹介などでした。

私は研修を受講する側の生徒という視点でしたが、その内容は、東部中学校の道徳でやっているグループで意見を出し合う授業と同様に、グループそれぞれで話し合っていることがリアルタイムで前にある画面に出てきて、それを見ながらまた色々な意見を出したり、考える時間がつくれたり、やっている生徒側としてもすごく興味深いというか、勉強になる講義だったことを思い出しました。また、時間的に効率よく意見交換ができることも実感できました。これが各学校で実際に始まっていくということで、すごく期待しています。

また、千歳高校の英語の授業を見せていただいたことがあるのですが、同年代の外国の高校生と一緒に、実際に対話をしながら英語を学んでいくスタイルで進めていたのですが、そういったこともどんどん可能になってくると思います。

私たちが子どもだったときと全く違う教育で、それを大人の私たちが体験して、すごく面白いというか、まさに勉強をさせられているという感覚ではなく、こういう機器の使い方によっては、子ども自らが楽しんで学んでいくことができることを非常に実感したことを思い出しました。

我が家には、小学生と幼稚園の子どもがいるのですが、親の目線から言うと、家庭学習に対する期待がすごく大きいです。毎日宿題を持って帰ってきてプリントをたくさんやるのですが、プリントがすごく多いというのが率直な感想で、先生方も大変だろうということがあります。

今は、先生方の仕事が多くて負担をどうするかという議論を長くされていると思うのですが、その中で、こういったものを使って省略できたり、楽ができるところは楽をして、その時間を活用して教材研究を行い、授業をいい方向に持って行っていただくことが先生方の仕事だと思います。

下の娘の幼稚園では、こうしたことがかなり進んでいて、ここに載っているアンケートなども既にスマホのアプリで全てできるようになっています。これは、幼稚園だけではなく、私立の学校などでもそうなっていると思います。

新型コロナウイルスによる臨時休業のときは、休んでいる間の勉強をどうするのかということで不安を持っていた保護者たちがたくさんいて、余計に注目されたことがあると思います。私立の学校とすごく差があると感じていたので、親として、どの子どもたちも同じ学び方ができるように早くやっていただきたいと思いました。

もう一点、こうしたことを色々考えたときに、専門家の方をたくさん派遣して先生方に学んでいただくことは大事だと思いました。

私が受講した研修のときは、マイクロソフトの社員の方が来て色々とサポートしていただいたのですが、それを専門にやっている方に教わると、使い方というか、その良さを余すことなく使えるし、新しいアイデアをもらえることがあると思います。学校の中にも得意な方がいらっしゃると思うのですが、せっかく揃えて環境整備をするのであれば、それを使いこなす側の力量がないといけないと思うので、ぜひ学校に専門家の方を派遣していただいて、よりよく使ってもらえるようにしてほしいと思います。

上野市長

ありがとうございます。次に、石上委員、お願いします。

石上委員

説明していただいても、私は本当に、どういうふうに変わっていくのだろう、もっとももっと変わっていくのだろうというイメージです。

先ほど、道徳と社会と国語の説明があったのですが、これからは、このようなことがもっとももっと増えていくのだろうと思います。ここには載っていない数学や理科などでも、これから先生方の研究が進んでいき、ICT でやると効果的な学習活動などがどんどん見つかっていけばいいと思います。そして、効果のあるところをピックアップして、対話として残さなければいけない部分と、ICT をもっと進めていくところが精査され、教育効果の高い授業ができていくようになると思います。

先ほど、小テストの活用のお話があったのですが、「小テストの」と言っているところは、本当の定期テストはまだできないからだと思いますが、あくまでも小テストだけとするのか、将来的に ICT を使って定期テストができるようになっていくのか、そういうことも時間をかけて検討していくことが必要だと感じました。

各家庭でお習字の道具みたいに用意してもらうことの検討ということでしたが、5～6年で更新するものを市がずっと整備していくのはちょっと難しいと思いますが、お習字の道具とは家庭が負担する金額が違ってくると思いますので、実施する場合は、負担できない家庭への補助などが必要だと思います。また、家庭で用意してもらう場合、また新しい問題が出てくると思います。

上野市長

ありがとうございます。次に、高山委員、お願いします。

高山委員

私からは、2点お話しさせていただきます。

1点目は、ハードの部分とソフトの部分で1つずつです。今回、GIGA スクール構想ということで、1人1台のパソコンを整備して、教育の学びの基盤づくりがスタートすることにわくわくしていますし、いよいよこういう時代が来るのだということで、希望が叶えられて本当にうれしいと思いました。

1人1台のパソコンを色々な学びに活用し、色々な力をつける若者をたくさん輩出して、未来の明るい北海道、北広島市に向かっていければという気持ちでいっぱいです。

ハードはたくさん配置してもよろしいのですが、そもそも3,000台という大量のパソコンを納入したときに、通信速度の問題など、色々クリアしなければならないことがたくさんあるし、費用もかかりますので、これらの課題をどう解決していくのかという思いがあります。

次に、先生方も含めて保護者もパソコンについてのスキルなどを上げていかなければいけないと思います。今一番分かっているのは若者で、これに対してすんなり入っていけると思うのですが、先生たちがこれにきちんとついていけるかというところがありますので、研修など、スキルアップの問題が大切になると思いました

こうしたことを踏まえると、少しでも早く納入してもらい、早くスタートして、それに慣れて活用できるようになればいいと思ったところです。

上野市長
吉田教育長

ありがとうございます。最後に、教育長、お願いします。

今、委員からのお話をお聞きして、ICTを導入して、それらを使うことによる教育的な効果が期待される部分、例えば、情報活用能力がますます備わって、これからの社会を生きていく上で必要な力を育てられる、あるいは、楽しみながら勉強できる要素もあるのではないかと、それから、家庭学習等、家に帰ってからの個別の学習支援もできるようになるのではないかと、ということがありました。

それから、ICTを使うことによって、とりわけ効果が上がるものをもっと研究し整理して、それ以外のところを先生方が対面で指導すればよいのではないかと、そういう整理をきちんとしていくことによって教育効果が上がっていくのではないかと、というお話があったと思います。

一方で、ハードの整備や研修、指導力など、もっと言うと保護者の理解も広げていく必要があるということで、ICT環境の整備について様々な視点からご意見があったと思います。

6月に中央教育審議会でも、新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会がありまして、その中間のまとめなどを見ますと、今の感染症が終息せずに、必要に応じて臨時休業が行われる段階では、対面指導と遠隔・リモート教育の組み合わせによる新しい教育様式を考えているということが示されています。

また、一方では、コロナ禍が終息したとしても対面指導と遠隔指導の両方を融合した授業づくりを今後も進めていかなければならないので、国の施策としても学習

指導要領で求めている資質、能力を育てていく上でも、ICT環境の整備について、自治体が保護者や地域の方に理解していただきながら、どのように環境を整えていくかということが課題になっています。

今、各委員の皆さんからご指摘いただいた様々な視点をクリアしながら有効に使っていくべきものだというのを改めて感じたところです。

上野市長 ありがとうございます。我々の年代では、こういうことが起こるとは全く予測がつかなかったと覚えているところです。

GIGAスクール構想で子どもたちに1人1台のパソコンが導入されますが、将来的には全ての教科書もここに入ってきて、ペーパーレスに向かっていくと思います。この構想は10年くらいを目標にしているものですか。

下野課長 今回、学びの変容に取り組みますが、今後は、1人1台端末は必須ということで、10年よりも短いスパンになると考えています。

上野市長 GIGAスクール構想は、相当なスピードで行くのだと思います。そうしますと、教育委員の皆さんからもご指摘がありましたように、費用面の課題は避けて通れないものと考えています。

それから、ICTの整備について、本市は速いと思うのですが、このGIGAスクール構想が、今やっている授業の中にすんなりと入っていけるのかどうか、また、指導する先生方のご負担が過重にならないのかという心配な部分もあります。

この点、寺嶋教頭先生、いかがですか。

寺嶋教頭 先生方は、あくまでもタブレットの活用例としてここに出しておりますが、先ほどご説明しました理科や数学などは、実際にデジタル教科書を使って、日々、全体指導などを行っていますので、先生方としては、逆に環境を整えていただいたことで、とても授業がやりやすくなっています。

色々ご指摘いただきましたが、今、月に2回、富士電機さんからICT支援員が学校に来ていただいています。先ほど言ったように、私たちがこれをやるに当たって、どうやって使うのかということがありますので、昨年度も支援員さんに研修をしていただきました。また、写真にもありましたが、ICT支援員に授業に来ていただいて、操作の補助を実際にしてもらっているのです。私どもも勉強しながら活用しています。こうした支援も、市に行っているところなんです。

上野市長 子どもたちはすんなりと入っていただけますか。

寺嶋教頭 子どもたちに、「パソコン室からこうやって起動させてこうやって持ってきてね」と言ったら、順応がとても早く、慣れているのだなということを感じています。

吉田教育長 市長のご心配のところの補足説明ですけれども、北広島は、平成21年の国の第

2次補正のときに電子黒板を一早く入れて、全部の教室に配置したのです。まず、その一歩が早いのです。その後は一定の予算措置をいただき、順次更新したり、新しいものを整備してきました。

電子黒板の導入当初、先生方からは、その活用について不安の声がありました。4～5年くらい遅れて管内の各市町村も電子黒板を入れ始めましたが、その間は、先生方が異動してくるたびに北広島でICT活用力を育てて、他のまちに人材を送って、また初めてという先生を迎えて育てるといった時期がずっとありました。

最近では、それぞれの市町村で似たような環境が整備されており、機種が違うということなど色々ありますけれども、触ったり、指導に使う点では、人事異動があってもある程度は大丈夫です。年齢によって使う頻度は違うかもしれませんが、おおよそみなさんが活用できるようになってきていると思います。

もう一つは、校務支援システムを導入させていただいていまして、それにより先生方がパソコンに触る機会が普通になりましたので、これから新しいタブレットが入っても、先生方は大丈夫だと思います。あとは、指導にどう使うかというところの研修を深めながら、事例を積み上げて共有財産にしていけば、一定の予算をかける価値はあり、子どもに還元することが十分できる取組だと考えています。

上野市長

未来は明るいということですね。

日程第3 その他

上野市長

それでは、その他ということで、事務局から何かありましたらお願いします。

(「特になし」の声あり)

日程第4 閉会

上野市長

最後に、次回の総合教育会議についてですけれども、今後、協議事項が生じたら、その都度開催したいと思っておりますので、連絡を取りながら日程調整をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

異議がないということでありますので、そのようにさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、令和2年第1回総合教育会議を閉会いたします。

お忙しいところありがとうございました。